

1月の寄贈品コーナー

寄贈された植物の写真と文献

期間：1998年1月6日～2月1日

内田藤吉氏の寄贈資料

昨年不慮の事故で亡くなられた内田藤吉氏は、長年にわたって平塚市花水台に住まれ、小学校で教鞭をとるかたわら植物の研究を続けておられました。80歳を越す年となられても、元気に野山を歩かれ、博物館にも写真や標本を持ってよく訪ねて来られました。

内田先生が特に力を入れて調べておられた植物にカンアオイの仲間があり、西丹沢にズソウカンアオイが分布していることを明らかにされたことは特に大きな功績でした。箱根のランヨウアオイ、大磯丘陵のオトメアオイなど、現地をくまなく歩かれて綿密な分布地図を作られるのが内田先生がいつもとられる方法でした。

先生が亡くなられてから、残された膨大な写真を博物館に寄贈して頂けるというお話がありました。先生は生前から、もしものことがあったら、写真と本は博物館で活用してもらえと奥様に話されていたそうで、後進を思いやる先生の気持ちは実にありがたいものでした。

ご遺族から寄贈を頂いたスライドは、ほとんどが植物の生態写真で、箱根、丹沢をはじめとする県内各地の植物が600種類以上含まれています。先生が好んで登られていた、岩手県の早池峰山や、南アルプスの北岳の高山植物の写真も多く入っています。先生の写真の特徴の一つは、同じ種類の同じ株でも何枚も撮影されていることで、ピントもよく、写真資料として大変貴重なものです。博物館の今回の展示替えでも、情報コーナーで早速先生の写真が役立てられました。

なお、膨大な数の写真の整理には宮崎直緒子さん、馬鳥敏子さんがボランティアとして協力してくださいました。

小原敬氏の寄贈資料

昨年10月号の本誌でも紹介したように、藤沢市在住の小原敬氏から、多数の植物学の文献が博物館に寄贈されました。

小原先生は、平和学園で仕事をされるかたわら、植物、貝、鉱物などさまざまな自然物に興味を持たれ、特に植物の研究史に関しては、専門的な研究をされてきました。

1988年に神奈川県立博物館から刊行された「神奈川県植物誌1988」には「神奈川県植物研究史1」を執筆され、本県の植物がいつ頃からどんな研究者によって調べられてきたかが克明に記述されています。先生は博覧強記と呼ぶのにふさわしい方で、数多くの文献の隅々まで記憶され、その該博な知識に基づいて、研究史を執筆されました。

今回、寄贈して頂くことになった文献は、そうした研究史解明の基礎になったもので、既に紹介したように、ヨーロッパ植物誌、ロシア植物誌、シーボルト(先生の指摘によるとドイツ人であるシーボルトの名前は正しくはジーボルトとすべきだそうです)など江戸時代に日本を訪れた学者の著作など多数に上っています。



写真 エビラシダ (撮影/内田藤吉氏)